

保育者養成課程における音楽表現力の深まりを考える

－「こども学研究」の視点から－

鶴巻 保子

A View on Deepening Musical Expression Ability of Early Childhood Education
－ Through KODOMO science study －

Yasuko Tsurumaki

保育者を目指す学生たちは保育内容領域「表現」を学修しながら、音楽表現力をどのように深めているのだろうか。領域「表現」とは音楽・身体・造形・言葉を指し、保育の現場ではこれらの表現分野を関連づけ、子どもの遊びを展開する総合的な指導に重点が置かれる。したがって実践力とともに音楽的援助ができる知識や技術を体験的に修得することが必要とされる。

本稿では学生の音楽表現力の深まりを探るために、鹿児島純心女子短期大学生活学科こども学専攻固有の科目「こども学研究」の視点から考察することを試みた。「こども学研究」における卒業論文の作成が音楽表現力を深めることに結びついていくのかを検討するために、まず授業の概要を述べ、次に筆者の担当したグループの研究テーマを振り返る。最後に令和元年度の「こども学研究発表会」における発表例と学生たちの感想記述を提示して、領域「表現」における音楽表現力の学修効果の示唆を得たいと思う。

Key Words : [こども学研究] [音楽表現力] [主体的学習] [豊かな感性]
[カリキュラム]

(Received September 23, 2020)

Ⅰ. はじめに

平成29（2017）年に「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」が同時に改訂され、平成30（2018）年度より新しい教育課程が始まった。これらには共通して幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿が挙げられた。領域「表現」において内容と大きな変更はないが、10項目の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中にも「豊かな感性と表現」として設定されている。

保育者を目指す学生にとって音楽表現力を身につけ、実践力を高めるとともに豊かな感性と創造性を備えることは欠かせないものである。そのために「子どもの表現を広く捉え、子ども自らの経験や周囲の環境との関わりを様々な表現活動や遊びを通して展開していくことが重要

* 鹿児島純心女子短期大学生活学科こども学専攻（〒890-8525 鹿児島市唐湊4丁目22番1号）

である」¹⁾とされている。

鹿児島純心女子短期大学生活学科こども学専攻(以下「本専攻」と記す)は、令和元年度より「音楽Ⅰ」を「こどもと表現(音楽)」に、「音楽Ⅱ」を通年科目から配当期を分け、前期「保育内容(表現)の指導法Ⅲ」(ピアノ表現Ⅰ)と後期「保育内容(表現)の指導法Ⅳ」(ピアノ表現Ⅱ)と科目名を変更した。音楽表現活動には様々な取り組みがある中で、筆者は先行研究において、担当していた授業「音楽Ⅰ」と「音楽Ⅱ」の学生たちの学びをレポート及びアンケート調査を通して考察した。前者(鶴巻, 2012)は「子どもの歌」を使用した「創作音楽劇」の活動を中心とし、授業のねらいや内容、プロセスを通して音楽表現力を修得するための総合的な学習として有用性の高い活動であることを述べた²⁾。後者(鶴巻, 嘉野, 2018)は習熟度別グループレッスンによるピアノ指導の取り組みについて初心者クラスは、基礎コードを用いた簡易な伴奏法を、経験者クラスは弾き歌いの指導におけるコード伴奏法の有用性とピアノ表現技術の教育効果を考察した³⁾。これらの科目の配当時期は1年次である。2年間の短い修養年限で子どもの音楽活動を展開するためのピアノ指導において、保育者に求められる音楽技術の修得を目指す上で、筆者は「柔軟な演奏」をキーワードにし、コード奏法を生かした伴奏法の指導を重視してきた。保育士と幼稚園教諭免許取得のための令和2年度音楽科目のカリキュラムを表1-1に、シラバス記載の到達目標と授業展開計画のキーワードを表1-2に示す。

表1-1 令和2年度保育内容の指導法に関する音楽科目のカリキュラム

系列	年次	配当	科目名	資格	単位	旧科目名
こどもと表現	1年次	前期	こどもと表現(音楽)	必修/幼保	1	音楽Ⅰ
		前期	保育内容(表現)の指導法Ⅲ(ピアノ表現Ⅰ)	必修/幼保	1	音楽Ⅱ
		後期	保育内容(表現)の指導法Ⅳ(ピアノ表現Ⅱ)	必修/幼保	1	(2単位)
	2年次	前期	ピアノ実践法	必修/保	1	音楽Ⅳ
		後期	ピアノ表現法	選択	1	音楽Ⅴ

表1-2 音楽科目、到達目標と授業展開計画のキーワード

科目名	到達目標のキーワード	授業の展開計画のキーワード
こどもと表現(音楽)	幼児期の音楽活動、子どもの感性、表現歌うこと、うた遊び、音楽表現の楽しみ遊びに展開、保育の場に活用	子どもの歌、季節の歌、手遊び、音遊びリズム遊び、うた遊び、わらべうた、グループ、創作、音楽表現、広い表現
保育内容(表現)の指導法Ⅲ(ピアノ表現Ⅰ)	読譜、基礎知識、コードの基礎、子どもの歌、簡易な伴奏、子どもの日常、弾き歌い	楽典の基礎、基礎テクニック、基本的な奏法、コード伴奏、弾き歌い、柔軟な演奏
保育内容(表現)の指導法Ⅳ(ピアノ表現Ⅱ)	読譜、コードの基礎、保育の場、子どもの歌、簡易な伴奏、保育の場、演奏計画弾き歌い	楽典の基礎、基礎テクニック、コード伴奏子どもの表現、基本的な奏法、弾き歌い柔軟な演奏、豊かな表現
ピアノ実践法	実習園、就職試験、課題曲、コード奏法、柔軟な演奏、子どもの歌、曲想、伴奏を工夫、保育の場、子どもの声や動き	コードの基礎、弾き歌い、童謡の伴奏、コード伴奏、柔軟な演奏、保育現場、実習園課題曲、3和音の基本形、転回形
ピアノ表現法	保育の場、音楽活動、子どもの声、子どもの動き、レパートリー、アレンジ、即興ピアノ伴奏	スケール、カデンツ、アルペジオ、弾き歌い、コード伴奏、伴奏、ピアノ表現力多様な音楽活動

一方、本専攻の「特別研究」の枠において「こども学研究」が保育実践演習として、他に「こども学概説」「こども学フィールドワークⅠ」「こども学フィールドワークⅡ」が設置されている。さらに「こども学研究」「こども学フィールドワークⅠ」「こども学フィールドワークⅡ」は本専攻固有の科目であり、開設当初より必修とし卒業要件に位置づけ、本専攻カリキュラムの根幹としている。令和2年度特別研究の開設科目を表1-3に示す。

表1-3 令和2年度「特別研究」のカリキュラム

系列	年次	配当	科目名	卒業要件	単位
特別研究	1 年次	通年	こども学フィールドワークⅠ	専攻必修	2
			こども学フィールドワークⅡ		2
		後期	こども学概説		1
	2 年次	通年	こども学研究	専攻必修	2

本稿は、「こども学研究」における卒業論文の研究が学生の音楽表現力の深まりに結びついていくのかを探る。まず「こども学研究」の授業の概要を述べ、次に筆者の授業で担当したグループの研究テーマを振り返る。最後に令和元年度の「こども学研究発表会」の中での発表例を提示して、それに対する学生たちの感想記述を分析し、領域「表現」における音楽表現力の学修効果を考察したいと思う。

Ⅱ. こども学研究

1. 授業の概要

「こども学研究」は2年次に開講される本専攻特有の保育実践演習科目である。平成14（2002）年、こども学専攻開設当初⁴⁾より本専攻カリキュラムに設置し、「こども学」の学びを深める科目として重視している。

授業の目的は「こども学専攻で学んできた知識や実習体験を土台として、子どもに対して常に問題意識を持ち、解決策を図ろうとする態度の育成」⁵⁾と示している。

授業は学生自身で具体的なテーマを決め、教員の指導のもとでグループごとに研究を進める。共同研究の成果としてパワーポイントを作成し、「こども学研究発表会」において口頭発表をする。その後最終論文と研究の振り返りを記入した個人レポートを作成する。評価項目は「論文」「個人レポート」「パワーポイント作成」および「口頭発表」であり、これらの課題に対する主体性、協調性、探究心などの取り組み姿勢が中核となる。この卒業研究の取り組みは、自分の考えを論理的に表現し保育者としての専門性を向上させる自己学習力を養い、卒業後の実践の場で応用できるように保育者の質の向上につながることを目指している。必修として共同の卒業研究であることから、2年間の学修の集大成として捉えている。

修養年限2年間の保育者養成校で卒業論文を必修としている短期大学は珍しい。本専攻のカリキュラムではゼミナールという位置づけはないが、通称ゼミとして定着している。

2. 「こども学研究」に向けて

平成30年度より「こども学研究」に向けて 1年次後期に「こども学概説」を開講している。この科目は「こども学と何か」を自らの見解で述べ、自分の考えを自分の言葉で明確に表現する力、そして自らの研究のテーマを持てることを目指している。授業の概略は、教員の提示する課題について考えをまとめ、他者にその意図をきちんと伝えることができるよう「学生によるディベート大会」と題してグループディスカッションを体験する。また各教員が専門分野の視点から「こども学」の理念を述べることやゼミナールの紹介をする。最後に2年生の「こども学研究発表会」には合同参加し、卒業研究に向けて課題を見出し自らのテーマや題材を学ぶものである。

3. 卒業論文完成までの工程

2年次1月に卒業論文を完成させるまでの工程は例年、1年次1月「希望研究テーマの提出」（第1希望～第3希望）、2年次4月「グループ分けの確定」、2年次5月「研究テーマの概要発表」、2年次11月「論文仮提出」、パワーポイント作成、2年次12月「こども学研究発表リハーサル開始」、2年次1月、こども学研究発表会、卒業論文提出、個人レポート提出という流れである。2年次が開講してから研究テーマを決定することになるので、1月の卒業論文提出まで9ヶ月である。この間、幼稚園教育実習Ⅱ（5末～6月）、保育所・施設実習Ⅱ・Ⅲ（8月）と2年次は2回の実習を行うので、実際論文の着手は9月という状況である。したがって2年間の集大成としての卒業論文の執筆にはグループの意識を高めると同時に、学生によっては基礎的なサポートや懇切な指導が必要である。卒業論文を提出までの工程を表2に示す。

表2 「こども学研究」卒業論文提出までの工程

年次 時期	特別研究	保育・教育実習	舞台発表（カリキュラム外）
1年次 前期	こども学フィールドワークⅡ 5月 純心こども講座① ⁶⁾ 6月 純心こども講座②		
後期	9月 こども学概説 10月 純心こども講座③ 12月 純心こども講座④ 1月 こども学研究発表会参加 1月 テーマ希望調査	11月 幼稚園教育実習Ⅰ 2月 保育実習Ⅰ(保育所) 2～3月 保育実習Ⅰ(施設)	10月 純短祭こどもバンド ⁷⁾
2年次 前期	4月 こども学研究 グループ分け確定	5～6月 幼稚園教育実習Ⅱ 8月 ※ 選択 保育実習Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅲ（施設）	
後期	1月 こども学研究発表会 1月 こども学研究卒業論文提出		10月 純短祭こどもバンド

4. グループ分け

1年次の専門教育科目を修得し、学生は希望する研究分野を選択する。グループ分けの方法を具体的に述べると、1月下旬に開催される「こども学研究発表会」に1・2年生合同で全員が参加する。各発表についての感想を記入し、終了後、「よかったと思う3つグループ」に○印をつける用紙が配布される。この集計は3月に行われる本学の「卒業研究発表会」におけるこども学専攻の代表2グループを決める参考としている。

次にすべての研究の発表後に2年次に自分がどのような研究をしたいのか希望調査を行う。本専攻の教員全員が「こども学研究」の科目を担当するので、教員の専門性より①哲学史 ②発達心理学・保育学 ③臨床心理学・家族心理学 ④教育学・特別支援教育 ⑤社会福祉学 ⑥保育の音楽表現 ⑦幼児教育・教育社会学 ⑧小児保健・母子保健を領域例として挙げている。これら保育のさまざまな分野の中から学生は第1希望から第3希望まで選び、その理由を簡潔に記述する。学生の希望をもとに各教員の担当学生数が偏らないように、グループ編成を行うという流れになる。図1に令和元年度「こども学研究発表会」（令和2年2月25日開催）の16グループのテーマを示す。（発表順）

図1 令和元年度「こども学研究発表会」のテーマ

- 1 偏食について－偏食に対する援助の背景にある意識－
- 2 嘘はいいのか－嘘に対する保育者の関わり－
- 3 なぜ人気？アンパンマン－50年の歴史－
- 4 きょうだいのきもち－4つの型から学ぶ保育の仕方－
- 5 メルヘンはなぜ怖いのか？－書き換えられた原作の本質を探る－
- 6 「見てはいけない！」の真意－昔話・神話に学ぶ知恵－
- 7 母子の愛－妊娠～教育の影響－
- 8 胎教から学ぶ親の思い
- 9 日本の女性が抱える育児不安の現状と課題－日本の制度とフィンランドのネウボラを比較して－
- 10 双子・三つ子の世界－もしも双子を育てることになったら－
- 11 子どもと親、相互の心に届く子育て－親の思いと子どもの思い－
- 12 虐待による症状とそのケアについて
- 13 ディズニー音楽に息づく伝統－子どもの夢と希望を育てるために－
- 14 うたとあそび－育む・つながる・広がる保育のために－
- 15 保育の導入の必要性和意欲の変化－「させる」にならない導入の工夫－
- 16 絵本の好みに関する分析と検証－食べ物絵本の魅力ってなあに？－

Ⅲ. 音楽ゼミ

1. 研究テーマと動機

すでに述べたように、本専攻のカリキュラムにはゼミナールを設置していないが、いつしか「ゼミ」と呼ぶようになった。したがってここからは「ゼミ」と記載したい。筆者も「こども学研究」を本専攻のカリキュラムにおいて重みを持つ授業として認識している。1年次に学修した「こどもと表現」（音楽）、「保育内容」（表現）の指導法Ⅲ（ピアノ表現Ⅰ）、および「保育内容」（表

現)の指導法Ⅳ(ピアノ表現Ⅱ)の学修を土台として保育・教育に関連する音楽テーマを扱う。

音楽分野に関心を持ちさらに音楽を掘り下げたい学生が「子どもの音楽表現」を中心とし、将来保育現場で活用する意識を持ち、知識と実践を結びつけるテーマに取り組む。研究のきっかけを筆者は子どもの日常生活や遊びの中で音楽を楽しむ姿に目を留め、そこに眼差しを注ぐという音楽に対する感性を大切にしている。音楽ゼミには例年、7～9名が集まり、2グループに編成する。平成25年度から令和2年度までのゼミ学生の研究テーマの動機、グループの人数、研究テーマと主な考察事項を表3に示す。動機欄のaは幼稚園教育実習・保育所実習、bは幼児体験、cはテレビによることを意味する。研究テーマの動機の詳細をさらに図2に示す。

表3 平成25年度～令和2年度までの研究動機、グループの人数、研究テーマと主な考察

No 動機	年度 人数	研究テーマ
		主な考察事項
① a	平成25年度 4名	わらべうたー育む・繋る・広がるー「わ」
		「わらべうた」のもつ特性からコミュニケーションを育む「和」、遊びの中でつながる「輪」、家庭、地域に広がる「和」という3つの「わ」に着眼し、人とかかわることに意味づけをし、子どもの発達の有用性を考察した。
② a	平成25年度 3名	赤ちゃんにやさしい音環境とはー語りかけ・歌いかけを通してー
		生まれたばかりの赤ちゃんが母親の声を聴いて反応するという感動体験から、友人の赤ちゃんへの声かけ、音と音楽に対する反応を観察した。特に母親の声は情緒の安定を得るものであることから保育者の声かけの重要性和保育室の音・音楽環境づくりについて考察した。
③ a	平成26年度 5名	人の感情に寄り添う音楽ー「アナと雪の女王」に見る心象風景ー
		本学の全学生514名を対象に劇中の音楽についてアンケート調査を行った。調査の結果、最も印象に残ったのはリズム、次にメロディーという回答を得た。歌詞や言葉以上に人に寄り添う音楽は子どもの感性を育むことから、子どもの情緒の安定につながる音楽活動について考察した。
④ a	平成26年度 4名	子どもが楽しむ音世界ー音楽でこころの種を育てようー
		実習園で元気がない子どもが自分から大太鼓を「やりたい」と進み出た姿に着眼した。純大祭のキッズルームに小さな楽器コーナーを設置し、子どもが音を鳴らして楽しむ動作や耳を澄まして好みの音を探す姿を観察した。子どもが耳を澄ますことから始まる音の世界について考察した。
⑤ b	平成27年度 4名	ジブリ映画にこめられた思いー心に響く音楽の秘密ー
		幼児期から家族とともに楽しんだ映画「風の谷のナウシカ」「となりのトトロ」「魔女の宅急便」「千と千尋の神隠し」を選び、宮崎駿監督の作品に対するメッセージを捉えた。「映画も音楽も感受性を育てる」という久石譲の音楽の作曲手法と子どもの心を掴む音楽の効果を考察した。
⑥ b	平成27年度 4名	演劇教育の意義についての一考察
		平田オリザ氏の特別講演会を聴き、保育園、幼稚園での生活発表会の演劇体験をもとに、劇には台詞を覚え、演じるという表現、音楽、言葉、遊びを含む要素が含まれており、表現力を育むため有用性の高い活動であることを考察した。
⑦ b	平成28年度 3名	ダンスによるリズム・こころ・からだの交響ー踊りの力を子どもの力にー
		幼少期から通っていたキッズダンス教室と市内の女子高等学校のダンス部の活動を観察し、指導者2名のインタビュー内容からダンスの子どもへの有用性を分析した。またダンスにおけるリズムの特性に着眼し、教育理念である子どもの「生きる力を育む」ことにどのようにつながるかを考察した。

⑧ a	平成28年度 4名	歌を遊ぼうーわらべうたとマザーグースの歌あそびをめぐってー
		本学英語科の外国人教員4名に、母国における伝承童謡「マザーグース」について聞き取り調査を行った。全員幼い頃、歌ったり遊んだ記憶があるという回答を得た。日本の伝承歌遊びである「わらべうた」と比較し、単純な歌を触れ合って遊ぶという共通性とその意義を考察した。
⑨ a	平成29年度 4名	子どもの「ふしぎ」なしぐさーリトミックの視点からわかる動きー
		音楽が聞こえると自然に体が動き踊り出す子どものしぐさに着目した。市内の地域福祉館で実施されている「親子リトミック教室」に参加した。リズムに合わせ親子で動く活動から、愛情を基礎にして行うことが大切であり、子どもの表現力と成長に大きな影響を与えることを考察した。
⑩ c	平成29年度 5名	赤ちゃんは何が聴きたいの？ー笑顔につながる音の秘密ー
		うどんをすする音で赤ちゃんが泣き止む動画を見たことから、赤ちゃんが音をどのように受けとめているのか、実際に知人の母親の声かけで泣き止む実験をした。赤ちゃんが好む声や歌声があり、音に興味を持つことが示され、赤ちゃんにやさしい保育の音環境について考察した。
⑪ a	平成30年度 3名	「おかあさんといっしょ」はなぜ人気？ー子どもの興味を引き出す音楽の可能性ー
		実習園で「おかあさんといっしょ」の曲が多く歌われており、子どもが歌いながら夢中になって踊っている姿に着目した。1959年、NHK教育テレビで放送が開始して以来、世代を超えて多くの人々に親しまれてきた「おかあさんといっしょ」の意味、人気曲のリズム、曲想を考察した。
⑫ b	平成30年度 3名	誰からも愛される音楽の奥義ーモーツァルトの曲想をもとにー
		モーツァルト効果という言葉から記憶力、集中力、協調性を高める音楽の効用について関心をもった。人に寄り添い誰にも受け入れやすい音楽環境を考えるため市内の産婦人科、小児科へ聞き取り調査、ショッピングモール他商店で流れている音楽を分析し、5領域との関連性を考察した。
⑬ a	令和元年度 5名	ディズニー音楽に息づく伝統ー子どもの夢と希望を育てるためにー
		幼い頃から耳にし、自然と口ずさめる歌の特徴やウォルトと作曲者の気概を調べた。「こどもバンド」で演奏した「アンダー・ザ・シー」「ホール・ニューワールド」を選曲し、映画のストーリーやイメージと音楽のかかわりや子どもと多くの人の心を掴む要因を考察した。
⑭ a	令和元年度 3名	うたとあそびー育む・つながる・広がる保育のためにー
		後述のため省略
⑮ a	令和2年度 3名	どうして音楽は心を動かすの？ー音楽経験を通して子どもの感性を伸ばしたいー
		園で音楽に触れる機会が多い中、保育者のピアノ伴奏によって子どもが片付けを始めたり集合する動きを見て、言葉を超えた音楽の力に驚いた。子どもに優しく柔らかい印象を与える歌や音楽の活用の仕方を考察する。
⑯ a	令和2年度 4名	どうしてリズムは楽しいの？ー音楽あそびを通して「個」育てたいー
		パブリカの音楽が聞こえると反射的に踊り出す園児、リズムに乗って体を揺らす子ども、リズムあそびをする子どもたちを観察し、子どもらしい自由な表現に気づいた。子どもの個性を育む音楽あそびの多様性と活用法を考察する。

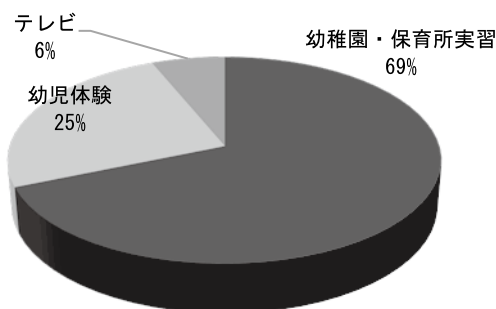


図2 テーマ設定の動機 n=16

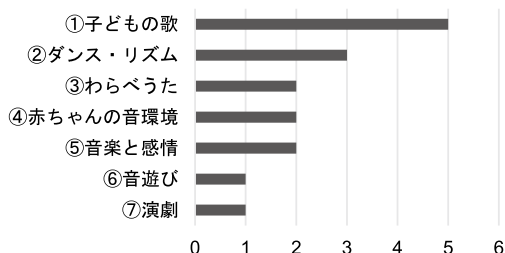


図3 テーマの類別 n=16

図2からテーマ設定の動機は、幼稚園教育実習、保育所実習経験が16グループのうち11グループ(69%)である。幼児体験の思い出を動機として4グループ(25%), テレビ映像からは1グループ(6%)である。したがって学生の研究テーマの動機の多くは実習期間中、音楽を楽しむ子どもの姿を受け止め、音楽の芽生えを見出すことに起因している。実際に子どもの表現を見て触れ合った経験をステップとし、卒業研究につなげている。

次にテーマを分類した。子どもの音楽表現は音楽の様々な要素を複合的に取り入れて展開するので厳密に区分できないが図3のように7種に表した。①子どもの歌に関するテーマが最も多く16グループ中5グループ(31%)である。これらはジブリ、ディズニー、「おかあさんといっしょ」の歌が含まれ、歌ったり踊ったりできる広いジャンルである。続いて②ダンス・リズムに関するテーマは3グループ(18%)であり、歌やダンス、リズムに乗る音楽と動きに関するテーマである。③わらべうた、④赤ちゃんの音環境、⑤音楽と感情に関するテーマは2グループ(13%)ずつである。③は遊びの中で歌われるうた、④は乳児と音・声のかかわり、⑤は感情経験としての音楽と保育のかかわりについての考察である。⑥は音遊び、⑦は演劇で各1グループ(6%)ずつである。

2. 「うたとあそびー育む・つながる・広がる保育のためにー」

本研究の方法は、令和元年度の「こども学研究」の音楽ゼミ2グループのうち、「うたとあそびー育む・つながる・広がる保育のためにー」の研究の取り組みを通して考察する。グループの人数は3名である。論文は全6章から構成されている⁸⁾。以下に概要を示す。

第1章 はじめに

1) 研究動機 2) 目的 3) 方法は次のとおりである。

1) 実習を通して子どもたちが楽しそうに歌っている姿に目を留め、自分たちの幼少期と同じ歌が歌われていたことから、歌い継がれている歌に興味を持った。鹿児島県内の幼稚園、保育所及び保育者養成校で広く活用されている音楽教材、鹿児島市私立幼稚園協会の『うたとあそび』が1990年に発行されて以来、29年ぶり(2019年)に大きく改訂された理由を調べたい。

2) 改訂版に収録されている歌と、乳幼児の人格形成に影響を与える「子どものうた」につ

いて詳しく調べ、保育者の役割を知り保育現場で活用したい。

3) 方法 (1)こども学専攻の1・2年生対象に子どものうたについてのアンケート調査

(2)『うたとあそび』鹿児島市私立幼稚園協会の改定前と改訂版に収録されている歌を比較検討する。

第2章 『うたとあそび』とは

これまでの『うたとあそび』の経緯と、改訂にあたり鹿児島市私立幼稚園協会より発行された音楽教材の歴史と改訂についての趣旨を説明する。

第3章 アンケート調査、結果、考察

アンケート調査の対象は、令和元年度鹿児島純心女子短期大学生活学科こども学専攻1年生68名、2年生67名である（回収率93%）。アンケート内容は、改訂前の『うたとあそび』の全177曲から60曲を厳選した。1年生には幼児期に幼稚園・保育所で歌っていた曲はどのような曲であったか。その他『うたとあそび』以外に歌っていた曲についての調査である。2年生には5回の実習（施設実習を除く）で歌われていた曲についてのアンケートを行った（回答は複数回答可）。

結果の集計と結果を考察する。

結果について、学生がよく歌っていた曲を人気と捉える。上位は「ふしぎなポケット」「ぞうさん」「アイアイ」「おもちゃのチャチャチャ」「かえるの合唱」「チューリップ」の順である。

第1位の「ふしぎなポケット」の人気の理由は、子どもにとって不思議な世界を楽しめる歌詞で心が弾むような軽快なリズムに合わせて歌いながら、自然に動作で表現できるからだと考える。

一方「ぞうさん」「チューリップ」は「ふしぎなポケット」と対照的で穏やかな曲調である。前者は「かあさん」という歌詞が最高音となり親子の愛を表現している。後者は歌いやすい曲であり、赤・白・黄色と子どもに分かりやすい色、季節感を味わうことができるなどの特徴を人気の理由とする。上位に挙げた他の3曲の特徴を述べ、「おもちゃのチャチャチャ」についてはオリジナル伴奏譜と簡易な伴奏譜が掲載され、その活用法とピアノ伴奏の効果を考察する。

次に『うたとあそび』にない曲で幼児期に歌っていた曲の上位を示し、それらの特徴を述べる。

第4章 『うたとあそび』改訂前と改訂版の比較

まず、改訂版『うたとあそび』で掲載されなくなった曲は「きよしこの夜」「びわ」を挙げる。次に楽譜が大幅に変更された曲は「オバケなんてないさ」である。最後に新たに加わった曲は、

改訂版に「さんぽ」「にじ」「にじのむこうに」「ドレミの歌」「にんげんっていいな」を挙げそれらの理由を考察する。「わらべうた」については改訂前と改訂版の『うたとあそび』に掲載されている曲目に大きな変化はないが、改訂前では「あんたがたどこさ」「かごめかごめ」「通じゃんせ」「花いちもんめ」「ひらいたひらいた」に伴奏が掲載されているのに対し、改訂版ではすべて旋律のみの楽譜となっている。これは本来のわらべうたが「遊び」であるという視点から無伴奏の楽譜であると考ええる。さらに昔話のうたとして「うさぎとかめ」「桃太郎」「浦島

太郎」「金太郎」が掲載されたことを考察している。郷土のうた（鹿児島県の民謡）は「泣こかい飛ぼかい」「サラリと勝ったよ」「ちゃわんむしのうた」「ねんねがせ」が掲載されている。「泣こかい飛ぼかい」「サラリと勝ったよ」では楽譜に加えて遊び方も掲載されており、子どもたちが親しみやすいような工夫が見られると述べる。

第5章 うたとあそび－育む・つながる・広がる保育のために－

まず、保育者を目指す学生としての立場から改訂版の『うたとあそび』の感想を述べ、使いやすくなった点について5点述べる。①楽譜が大きくなった、②和音記号（コードネーム）付きである、③子どもが歌いやすい前奏になった、④歌が豊富になった、⑤簡易伴奏譜と扉のページが掲載された。

次に意見、要望を5点述べる。

第6章 おわりに

「生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期」である乳幼児のために、歌を通して子どもたちが喜んで楽しく歌えるように作られていたことが検証できた。

子どもたちだけではなく現役保育者が使いやすいように楽譜が見やすくなっていることやピアノ初心者の保育者でも伴奏ができるように検討されている。歌と遊びを通して、子どもと親、子どもと保育者、子ども同士、子どもと環境がつながり、広がる保育実践へと生かしたいと結んでいる。

IV. こども学研究発表会

1. パワーポイントの内容⁹⁾

まず『うたとあそび』の改定前と改訂版の装丁を表示し、鹿児島県の保育者養成校の教材が29年ぶりに大きく改訂され、出版されたことを印象づけた後で以下を続ける。

- ・研究の背景、動機、目的、方法 アンケート調査の結果
- ・人気曲と馴染みのない曲における特徴と意味
- ・調査の結果、人気曲第1位「ふしぎなポケット」と第2位「ぞうさん」の歌の意味内容と特徴
- ・「ぞうさん」の3/4の指揮をスライドショーの音楽に合わせて実践
- ・人気曲のまとめ
- ・馴染みのない曲「きくのはな」「うぐいす」の重要性
- ・『うたとあそび』にない歌の人気曲は「さんぽ（となりのトトロより）」「にじ」
- ・改訂版に新しく加わった曲、三太郎の歌「桃太郎」「浦島太郎」「金太郎」について
- ・「扉のページ」について、改訂版には各月の取り上げてほしい内容や遊びが展開されるように連関図により説明されている。
- ・乳幼児期の音楽は特徴、目的、作詞・作曲者に込められた意図がある。
- ・音楽は子どもの成長につなげる重要な役割があり、欠かせないものである。
- ・うたとあそびを通して、子どもと親、子どもと保育者、子ども同士、子どもと環境がつながり、

広がる保育実践へと生かし、つなげていく必要がある。保育者は子どもたちに寄り添い、子どもの心の変化を読み取りながら子どもを育てていくように求められていると結ぶ。

12分の口頭発表の中で、パワーポイント35枚のスライドでアニメーション機能を使用し、音楽は「ふしぎなポケット」「ぞうさん」「にじ」の説明の時に流す。「ぞうさん」では全員が指揮をする活動を行う。

2. 感想と考察

令和元年度「こども学研究発表会」の出席学生は配布用紙に感想を記述する。前半の発表が終了したところで10分の休憩を入れる。用紙には「本日提出」と記載されているのでほとんどの学生が終了後に提出を終えている。出席学生128名（1年生61名、2年生67名）の感想記述を類別し表5に示す。

表5 1・2年生の感想

① 改訂版について	
<p>私たちが使っている身近な教材赤本¹⁰⁾と今後使う改訂版の比較が興味深く聞けた。</p> <p>改訂版の扉のページに意図が書いてあり、保育者が活動しやすいように工夫されているので参考になると思った。</p> <p>大きく見やすくなっているので、これからの保育のためにわかりやすく学べ、改訂版の良さを知ることができた。</p> <p>改訂版の説明で、乳幼児期の音楽の意図と特徴が良く分かり、子どもの成長につながるように使いたいと思った。</p> <p>改訂版に新しい曲が加わった理由が分かり、今までより『うたとあそび』が身近ものに感じることができた。</p>	
② うた	
a. 歌詞の意味	<p>歌の一つひとつには子どもに伝えたい意味がこめられているのが分かった。</p> <p>幼児の歌は親しみやすい曲調、言葉だけでなく、動きをつけたり子どもの夢や想像が広がるような意図があり、奥深いと思った。</p> <p>歌によって育まれることが多くあることが分かり、発表を聴いて幼児の曲に興味を湧いた。</p> <p>季節の花、子どもの好きな色やものを歌詞に入れることで表現や想像が高まると思った。</p> <p>「ぞうさん」の歌詞に込められた思いやかあさんの部分で高い音になる意味を知ることができた。</p> <p>何も考えずに歌っていたが、私たちと園児が今も同じ歌を歌っているのはすごいことだと思った。</p> <p>歌が四季の変化、数字への関心、動物の泣き声など表現を高めることが分かった。</p> <p>新しく昔話の歌が入っているのが驚きだったけれど伝統を大切にするという意味が分かった。</p> <p>子どもの歌の作詞・作曲者の思いを忘れずに子どもたちにつなげ広げていきたいと思った。</p> <p>それぞれの歌のリズム感や拍子が大切だと分かり音楽の力はすごいと思った。</p>
b. 人気の高い曲	<p>人気曲4曲の分析を行うことによって、人気の理由や特徴が良く分かった。</p> <p>授業や実習でも人気の歌に入っていた歌を歌っていた。リズムが軽快な歌や季節の歌だった。</p> <p>子どもに人気な曲はみんなにも変わらずに愛される曲で季節感、希望を与える曲だと感じた。</p> <p>歌詞が分かりやすい歌、親子の愛を感じる歌、リズムが軽快な歌、子どもに夢や希望を与える歌、ゆったりとのんびりした曲調など、人気曲の特徴が色々あることが分かった。</p>
c. 馴染みのない曲	<p>昔から歌い継がれている歌を十分理解し大切にしながら、保育のねらい合うように生かしたいと思った。</p> <p>『うたとあそび』に載っているうたは馴染みのない曲でも意義や特徴、作詞・作曲家の意図を読み取り歌い継いでいきたい。</p> <p>私たちの知らない子どもの歌がたくさんあり、季節のうたが歌い継がれている意味が分かった。</p>

③ ピアノ
<p>ピアノを通して子どもたちに表現や音楽の素晴らしさを伝えていきたいと思った。</p> <p>将来ピアノを使って保育をするので、新しい歌や「いつでも歌えるうた」などすごく興味を持って聴けた。</p> <p>改訂によって難しくなった曲と簡易になった曲もあるが、初心者が演奏しやすくなっていることが分かった。</p> <p>改訂版に新しい曲がたくさん加わったので歌の幅が広がり、ピアノを弾くのが楽しみのようになった。</p> <p>弾きやすくなった「おもちゃのチャチャチャ」の伴奏を改訂版の楽譜でピアノを弾いてみたいと思った。</p> <p>弾きやすくなった曲を練習して、子どもたちが多くの歌を楽しく歌えるように弾きたいと思った。</p> <p>今練習している曲も新しい曲も改訂版でできるようにチャレンジしたいと思った。</p> <p>ピアノの伴奏で雰囲気も変わるので、人気曲の伴奏がみんな弾けるようにピアノの練習を頑張ろうと思った。</p>

④ パワーポイント
<p>発表スライドが工夫されていて分かりやすく、音楽を流すことでよりイメージしやすいと思った。</p> <p>スライドの説明に合わせて音楽が流れることで歌の特徴がよく分かり、3/4拍子の指揮をみんなでする動きもあって「ぞうさん」の歌が楽しめた。</p> <p>「ふしぎなポケット」が流れたら何回も自分のポケットをたたいたり、「ぞうさん」の指揮をしたりして参加でき楽しんで聴けた。</p> <p>「ふしぎなポケット」が流れるとワクワクし、自然と口ずさみリズムに乗って聴いていた。</p> <p>説明だけでなく曲を流したことで「ふしぎなポケット」と「ぞうさん」の歌の良さが分かり飽きずに聴けた。</p>

⑤ 保育者の視点
<p>歌を通して子どもたちの心の変化を読み取って、子どもの発達に合わせた歌の環境を整えられる保育者になりたいと思った。</p> <p>歌の意味とその意図をよく理解し、保育に生かすために工夫をすることがあることが分かった。</p> <p>子どもたちが季節を感じて歌うと、もっと楽しさを共有できると感じた。</p> <p>現場で使われている曲を深く考えることができ、歌の選び方を工夫しこれからの音楽活動に生かしたいと思った。</p> <p>季節の歌や「いつでも歌えるうた」が増え、保育がしやすいように扉のページにどんな活動で使えるのか記載されているので活用しやすく、保育者自身も楽しめると思った。</p> <p>よく歌っている曲でも歌の意味を知らない歌がたくさんあることに気づき、保育者になる者として歌の意味を学び、子どもとともに楽しんで歌っていききたい。</p> <p>新しい視点で歌の意味を知り、これからジブリや昔話の歌を積極的に取り入れていきたいと思った。</p> <p>歌を通して子どもに寄り添う心が大切で、保護者や地域との信頼関係につながっていくのを知った。</p> <p>保育でピアノがなくてもみんなで歌うことで子どもが楽しい気持ちになることが大事だと思った。</p>

⑥ その他
<p>音楽は演奏ばかりでなく、このような研究ができることを知りすごいと思った。</p> <p>「ふしぎなポケット」と「ぞうさん」の作詞者がまど・みちおさんと知り、顔を初めて見て興味を持った。</p> <p>子どもの頃から音楽に触れ、音楽の環境を整えることが大切なことだと感じた。</p>

考察

「こども学研究発表会」の1・2年生の感想記述を元に考察する。感想は16グループの研究発表を聴きながら短い時間内で記述するために集中力も要する。慣れない学生もいるので記述にバラツキが見られるが、概ね発表内容を的確に把握している。学生の身近な使用教材であり各々

がアンケート調査にも応えていることから興味、関心を持って聴けたのが分かる。

①改訂版について

平成元年度から使用するにあたり、改訂版について身近な教科書であることを受け止めることができたと考える。扉のページに保育がしやすいように各月の課題や説明が記載されていることや全体にどの学生も関心を示しているのが分かる。

②うた

a. 歌詞の意味について

「歌の意味を理解せず何となく歌っていた」学生が少なくない。子どもの歌の一つひとつに意味が込められ、曲の背景や歌詞に込められた意味を知り、情景を思い浮かべて歌う気持ちが大切であるが、子どもたちには、すべての歌の歌詞の意味を伝えるのではなく、子どもの「うた」としてのその歌のリズムや音楽を楽しむことが重要である。保育者は歌う時には、歌詞の意味をある程度理解しておく必要がある。学生たちは子どもが四季を感じ、季節の移り変わりへの気づきや自然に触れること、子どもたちと共感できる歌が大切であることが分かったと考えられる。

b. 人気の高い曲について

人気の高い曲4曲「ふしぎなポケット」「ぞうさん」「チューリップ」「おもちゃのチャチャチャ」を選曲してそれらの特徴と理由を述べた。一般に子どもの歌のイメージは、「明るい」「楽しい」「元気」「リズムが軽快」で動作やダンスがつけやすく、歌詞が分かりやすい。さらに2拍子、4拍子が圧倒的に多い。「ふしぎなポケット」「おもちゃのチャチャチャ」は学生全員が知っていて、好んで歌う曲である。明るく楽しいリズムカルな歌が子どもの心にすんなり入り、ファンタジーの世界に行ける、共感できる歌、心が弾むようなリズムや音の響きを兼ね備えた歌が好まれるのが分かる。

一方、2位の「ぞうさん」はゆったりとおちついたテンポの3/4拍子、子どもにとって一番身近な存在である母親との応答を歌っている。また「チューリップ」は春を感じさせる子どもの歌の代表である。赤・白・黄色という色への関心と「どの花見てもきれい」で大切という気持ちを伝えることができる。『うたとあそび』以外で人気の高い曲として歌われている歌は「にじ」である。後半で歌う虹の美しさと明日への希望を前向きに歌う歌として幼少期から歌われていたのが分かる。

c. 馴染みの薄い曲について

「きくのはな」「うぐいす」が挙げられた。2曲は季節の歌として歌い継がれてきた花の歌、鳥の歌である。知らない歌がたくさんあるが季節の歌が大切であることが分かり、馴染みのない曲も作詞・作曲家の意図を理解し大切にしながら、保育のねらいに添うように生かしたいことが記述から分かる。私たちは四季の変化の中で、豊かな自然と関わり生きている。子どもたちが歌うこと、あるいは聴くことを通して心を通わせ合い、動物、植物への関心を養い自然とともに生きていること、いのちが育まれることに気づく感性を育むことが必要とされる。

③ピアノ

ピアノによる伴奏や弾き歌いの必要性を自覚しピアノをどのように役立てるか、新しいレパートリーにチャレンジしたいという意欲的な記述が多く見られた。

ピアノはほとんどの幼稚園、保育園の音楽活動で活用されている。単に巧みに弾けるといった技術の問題ではなく、様々な表現活動において子どもの表現に応え、表現の幅を広げていくための技術を身につける。またオリジナルの楽譜と初心者のための簡易伴奏譜も掲載されたことから、初心者にとっても楽しみとなったことや子どもが歌うことを想定して、ピアノ練習の必要が分かっていると考えられる。

④パワーポイント

音楽を流すことによって歌のイメージを持たせ、内容のポイントと重要な言葉を見やすく強調し、アニメーションの表現手法を上手く生かしている。特に「ぞうさん」の4分の3拍子の指揮を行う活動は、身体を使った参加型発表として「みんなで楽しんだ」という記述が最も多く見られた。この動きを伴った音楽表現は子どもの音楽活動にも有効であると言える。ここで学生たちの創造的な音楽活動へと発展していく可能性が見出せる「ぞうさん」のスライド2枚について紹介したい。

「ぞうさん」まど・みちお作詞・團伊玖磨作曲

スライド①

- ・「ふしぎなポケット」とは曲調がガラリと変わるが作詞者は同じまど・みちおであると説明する。
- ・「ぞうさん」の歌の特徴が、ゆったりした曲調で、子どものよりどころである「かあさん」の「か」でこの歌の最高音となり、親子の愛、「かあさん」の愛情を表している。
- ・「ぞうさん」の曲の4分の3で象さんの鼻の揺れる様子を表していると述べる。

スライド②

演者：「ここでみなさんいっしょに4分の3拍子の指揮をしてみましょう。4分の3拍子の指揮は画面のように三角形を描くようにします。スライドに指揮の矢印が示される。『ぞうさん』の音楽に合わせて画面のように腕を振ってみましょう。」と誘う。

うたの1番を流す。

ぞうさん ぞうさん おはなが ながいのね そうよ かあさんも ながいのよ

演者：「ぞうさんの歌の鼻の揺れる様子が体験できたのではないのでしょうか。」

象さんの長い鼻を生かした3/4拍子の指揮の実践は、「ぞうさん」の1番のみ（18秒）の歌遊びに展開した。音楽遊びは楽しいのみではなく、音楽的な感覚を磨き、楽しく表現する体験を重ねていくことで音楽を深く捉える力を育むことにつながる。発表の中で歌いながら動作をつけることを通して参加学生たちと心を通わせ合い、イメージを共有することができたと考えられる。

⑤保育者の視点

近い将来、保育者になり音楽活動にあたることをイメージし、子どもの発達段階に合った歌

の選曲や音楽表現の工夫が必要であることを理解している。また保育者として子どもの感性や表現力、創造性を育むために、子どもの心の変化を読み取り、内的表現を受け止め、音楽的な環境を整えたい気持ちが見られる。

「ピアノがなくても歌うことで楽しい気持ちになることが大事」という記述は、保育における音楽の役割を学修した上で、保育においてピアノのない環境でも歌を楽しむ音楽活動を行えるという考えが反映されたと思われる。

⑥その他

音楽が遊ぶこと、演奏すること（play）を意味するように、音楽の理論的な研究発表を聴く体験が初めての1年生の記述である。保育の音楽活動が、実践だけでなく理論を踏まえて活用する必要性を感じたと考えられる。

歌の作詞・作曲者に興味をもつことは、歌詞の内容を理解し表現することにつながる。まど・みちおは日本を代表する詩人であり、詩はわかりやすく温かい歌が多い。童謡として「一年生になったら」「やぎさんゆうびん」など親しまれ歌い継がれている。保育現場で大事にして欲しいと思われる。

幼い頃から音楽に親しみ、音楽を楽しめる環境を提供する必要に気づいたと考えられる。

V. 個人レポート

「こども学研究発表会」終えた後、最終論文と個人レポート（A4サイズ1枚）を提出する。個人レポートは研究の振り返りとして設問①～③を記述するものである。3人の記述の抜粋を下記に示す。

個人レポートの設問

- ①「こども学研究」を行って「保育」の立場から子どもについてどのような学びがありましたか。
- ②グループ研究であなた自身は、どんな役割を果たしましたか。
- ③今後、「子ども」について、どのような研究をしていきたいと思いますか。

学生A

- ①・「うた」について今まで深く考えたことはなかった。研究を進めていくと1曲1曲の歌には作詞・作曲者に込められ意図があった。保育では「うた」の活動を多くするのは、「うた」が子どもの成長に重要な役割を果たしていることがわかった。作詞・作曲者の意図を知って子どもが楽しい、またやりたいという気持ちになり「うた」を通して子どもと保育者、子ども同士つながるようこの研究で学んだことを現場で生かしたい。
- ②・私はリーダーとして3人という少人数であった研究グループを少しはまとめることができたのではないと思う。論文構成では、3人でどのように論文を進めていくか時間をかけ

で話し合ってから論文を書き進めた。途中で大幅なテーマの変更があり、書き加えが出てきた時も3人で役割分担を行い、期日を決めて書き終えるように工夫した。

- ・リーダーとしてメンバーと担当の先生との間でのコミュニケーションはとても大切だと思った。チームがバラバラになりそうになった時、支えてくれた先生や一生懸命意見を出して答えを見出したメンバーのおかげで一つの論文が完成できた。感謝したい。
- ③・今回は『うたとあそび』の教材に注目したので「うた」全般をしたい。「うた」には様々なジャンルがあるためどのような特徴があるのか共通点や違いを調べていきたい。「子ども」は音楽活動に非常に興味・関心がある。そのため保育に取り入れる時には、どのようなジャンルの歌が真に適しているのか調べてみたい。

学生B

- ①・1・2年生へのアンケートの回答から『うたとあそび』の中で人気のある曲とそうでない曲の差がとても大きいことに驚きました。
実習園で歌っていた歌についてのアンケートでは、季節にあった歌を歌っている園がとても多い結果が表れました。馴染みがない歌でも子どもたちに季節感を感じてもらおうよう季節の歌を大切にしていきたいと思いました。
- ②・グループの中でアンケートのまとめ、資料作成を行い、パワーポイントの基礎を作りました。
私はパソコンがあまり得意ではないので、一番大変だったのは、資料作成とアンケートをまとめ、グラフを集計することでした。見やすいグラフの作成にとっても時間がかかりました。
・途中でテーマの大幅な変更があり、行先が見えなくなりそうになりましたが3人で支え合い、すばらしい研究ができたのではないかと考えます。
- ③・今回は『うたとあそび』についての研究を行ったので、次は子どもに人気のアニメの歌やディズニー、ジブリ、「おかあさんといっしょ」など子どもに身近な歌のほか、オープニングやエンディングの音楽について研究したいと思います。

学生C

- ①・乳幼児の音楽教材である『うたとあそび』を中心に行いました。音楽は保育の現場に必要な不可欠なものです。29年ぶりに改訂された『うたとあそび』に注目し、幼児期のうたの特徴や音楽活動に込められた特徴や音楽活動をする時の保育者に必要な意図を深く考えることができました。
音楽が子どもと保育者をつなげ、子どもの育ちに深くかかわっている重要性を学びました。
- ②・第一にパワーポイントの作成です。論文を元にパワーポイントに移し替える際、一番気をつけたことは「見やすさ」です。自分たちのイメージするパワーポイントを作成するのは音源の問題もありとても難航しましたが、先生とも話し合い最後まであきらめずに3人で協力して作り上げることができました。

- ③・今後研究を行うとしたら、もっと深く研究をしたいと思いました。
- ・実習園で行われていたりリズムをしたいと思います。子どもの発達を促すリズムの持つ音楽の可能性を知り、広めていけるような研究がしたいです。

考察

3人は「こども学研究」で、当初は歌い継がれている子どもの歌に関心を示していた。折しも数回改訂を重ねてきた『うたとあそび』が大きく改訂され、2019年4月に出版されたことからこれを主要文献とし、一人では創造することのできないテーマ「うたとあそび－育む・つながる・広がる保育のために－」を設定し、研究を進めた。

グループをまとめ協力して課題を解決していくと同時に「先生とのコミュニケーションがとても大切だと思った」と記述されているように学生と担当教員との信頼関係が不可欠である。これは学生が探究心を高め、教員とともに学び合う研究に結びつく。テーマのタイトルを変更し研究が停滞する過程を経て、感性のそれぞれ異なるメンバーが、それぞれの得意分野を生かし、また不得意な課題を乗り越えながら、互いを尊重し協調して進めていった。記述にはないが「やればやるほど大変」という発言があったように十分な準備と練習時間をかけ、「こども学研究発表会」と卒業論文の作成に到達し、自己成長を促すものとなったと考える。

保育現場では、種々の音楽活動の中でも「歌う」活動が中心となる。素朴な「うた」についての3人の研究は、口頭発表において、自分たちなりの表現したい気持ちを3/4拍子の「ぞうさん」の指揮から音楽遊びのようにして展開を見せた。発表までの過程とこの小さな活動の中には、3人の音楽性や音楽体験とともに創造し、参加した学生に感受されたと考える。

3人は今後の研究も音楽をしたいと応えている。幼児期に経験する「うた」や音楽が豊かであるよう子どもを中心に置き、幅広い音楽表現を通して保育の現場に生かしていけると期待したい。

Ⅵ. おわりに

本稿では、学生たちの音楽表現力が「こども学研究」の授業を通して深めていくのだろうかという問いに対して、「こども学研究」の授業の省察を通して、令和元年度の「こども学研究発表会」の音楽ゼミ1グループの口頭発表会とそれに対する学生の感想記述をもとに、「こども学研究」の位置づけから考察した。

「こども学研究」の音楽をテーマとした卒業論文と音楽表現力は深いつながりを持つものである。論理的思考能力、保育者としての専門性の向上と主体的学習力を志向する「こども学研究」が、音楽を子どもにかかわるあらゆるテーマの一つとするのは、「こども学研究」の目的に適い、学生の音楽表現に対する意欲を高めるからである。

この考察によって、ゼミ学生の表現力の向上と主体的学習による学生自身の成長の促しが示され、全体的には、学生たちが保育者として、子どもの感性や表現力、創造性を育むための意識の高まりを見ることができたと思う。しかし、個々の学生について実際に筆者が望むような主体的な学習と、音楽表現力に対する向上心が成立しているかは見えにくい。さらに検討が必

要であろう。

保育者養成課程において、音楽科目は保育者としての資質を育みながら、保育現場で音楽を活用できる方法と技術を身につけていく。保育者が子どもに伝えたいことをより十分に表現するために、音楽基礎技術を身につけ、できる限り上達することが望ましい。しかし基礎知識や技術の修得が目的ではなく、それらを保育現場で活用できる実践力や指導力が必要とされるのである。重要なことは、日常の保育において子どもの表現を十分に受け止めること、さらに子どものささやきを感じる心の耳と、子どもの音楽表現の芽ばえに気づき柔軟に対応する感性を備えることである¹¹⁾。感性は多くの音楽表現の経験によって磨かれ、自身の安定した音楽表現力を深めることにつながる。つまり、保育者の音楽性は音楽的知識や技術とともに音楽的な感受性を豊かにする必要がある。

一方、音楽表現の枠を超えた本専攻特有の特別研究を根幹としたカリキュラムにおいて、自主的な学習を生み出し、保育の専門性として必要な子ども理解を体験的に深め視野を広げることを目指している。「こども学専攻」の固有の理念に基づいて、他の専門科目と関連づけることは容易ではないが、総合的な表現力が高まることを目標としていきたい。保育内容において学生の個性を尊重し、潜在している音楽表現力は、反復によって次第に顕在化する。音楽表現力を深めることは、保育者に向かうらせん階段のようであり、短絡的に評価できるものではないと言えよう。

今後は保育実践演習としての「こども学研究」が論文発表に限定されるのではなく、領域「表現」の幅広い発表内容を視野に入れることも検討課題としたい。

謝辞

本研究を進めるにあたり、ご協力をいただきました令和元年度こども専攻の卒業生山下千佳さん、桑鶴若葉さん、宮崎由衣さんに心より感謝申し上げます。

注)

- 1) 平成22年、保育士養成課程等の改正について（中間まとめ7頁）。
- 2) 鶴巻保子「保育者養成のための音楽表現技術における学生の学び」『鹿児島純心女子短期大学研究紀要第42号』2012年、57-69頁。
- 3) 鶴巻保子、嘉野美津子「保育者養成課程におけるピアノ指導の一考察 ―グループプレッスンによるアンケート調査を通して―」『鹿児島純心女子短期大学研究紀要第48号』2018年、165-184頁。
- 4) 科目名称は、開設当初平成14（2002）年～平成21（2009）年まで「こども研究」であった。平成22年度より「こども学研究」と変更した。尚、「こども学」を冠した3大学の開設と同時に短期大学では本学が初めて「こども学」専攻として誕生した。新田司「『こども学』の変遷と課題」『千葉敬愛大学研究紀要第31号』2009年、95-104頁を参照。
- 5) 『こども学研究－研究のガイドライン－2020年度版』1頁。

- 6) 学内実習の場とし、1年に4回実際している。令和2年度5月6日（土）実施予定は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止となり、6月6日に実施した。
- 7) カリキュラム外の器楽合奏を中心とした課外活動である。鶴巻保子、木原英子「こどもバンドの活動報告－特徴あるアンサンブルの起こり、発展、可能性－」『鹿児島純心女子短期大学研究紀要第44号』2014年、111-130頁を参照。
- 8) 鹿児島純心女子短期大学生活学科こども学専攻2年生『令和元年度こども学専攻卒業研究「こども学研究」』（山下千佳、桑鶴若葉、宮崎由衣、279-302頁）。
- 9) 令和元年度「こども学研究発表会」発表原稿（山下千佳、桑鶴若葉、宮崎由衣）より引用。
- 10) 『うたとあそび』（鹿児島市私立幼稚園協会編、1990年）の装丁が赤一色であることから通称となっている。
- 11) 鶴巻保子「保育者養成のための音楽表現技術における学生の学び」『鹿児島純心女子短期大学研究紀要第42号』2012年、58頁。

参考文献

内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説平成30年3月』フレーベル館、2018年。

厚生労働省『保育所保育指針解説平成30年3月』フレーベル館、2018年。

文部科学省『幼稚園教育要領解説平成30年』フレーベル館、2018年。

鹿児島市私立幼稚園協会編『うたとあそび』1990年。

鹿児島市私立幼稚園協会『うたとあそび「うた」をきっかけに広がる保育のために』共同音楽出版社、2019年。



写真1
こども学フィールドワークⅡ
純心こども講座「リズムあそび」
令和2 (2020) 年6月6日



写真2
こどもと表現 (音楽)
令和2 (2020) 年7月21日



写真3
第1回オープンキャンパスオープニング
「こどもバンド」パフォーマンス
令和2 (2020) 年7月25日